

ナショナリズムを育て力づける
—植民地期インドネシアの〈原住民〉は何をサッカーから学んだのか?—
Instilling and Empowering Nationalism:
What Did 'Bumiputera' of Colonial Indonesia Learn from Soccer?

加藤 剛 (東洋大学)
KATO Tsuyoshi (Toyo University)

サッカーの正式名称は、地縁血縁と無関係なアソシエーションを冠した Association Football (AF) という。手を使わない Football (FB) はラグビーより規則が単純だ。だがこれが近代チームスポーツになるには、十数の英国 FB クラブが集まり Football Association を結成し、ルールを統一する必要があった (1863)。ゆえに AF と呼ぶ。

任意組織はサッカーの発展と不可分である。統一ルール策定後、FB は西欧や大英帝国植民地・貿易相手国など、世界中へと広がった。その過程で都市を中心に任意組織の FB クラブの結成・増殖があり、次いで同一都市内のクラブが集まって協会を結成、複数協会が集まり地域同盟を結成、やがて国レベルの統括組織を結成するという反復があった。最後の一例はオランダ FB 協会 (1889) である。国際連盟 FIFA も結成されている (1904)。

1863 年以降、FB は組織化・増殖・統括をボトムアップで繰り返すことによりグローバルな発展を遂げた。組織化と統括志向の根底には、多様な試合の希求と実績に連動し変動するチーム序列への高い関心がある。いずれもが選手、ファンの間に強い集団的感情移入と感情表現を惹起する。任意組織との関わりを含めて、これらは伝統的社會に生きる人々の経験にはないものだった。

東インドはヨーロッパ人 (1930 年総人口 6070 万人中 0.4%)、外来東洋人 (2.2%)、原住民 (97.4%) から成る「複数社會」である。FB クラブの結成も、1890 年代半ば～1910 年代初頭以降、基本的にヨーロッパ人、華人、原住民の「人種」別に進んだ。国レベルの統括組織も、蘭領東インド FB 連盟 (1919)、華南 FB 連盟 (1927)、インドネシア FB 協会 (1930) と 3 つである。東インドにおけるサッカーの発展は、原住民の間にナショナリズムの意識をどのように育てこれを力づけたのか。原住民の政治集会や活動が政府により大きく規制された 1930 年代、サッカー試合がナショナリズムを力づける上で持っていた意味についても考えたい。原住民 FB 関連組織の形成史と雑誌スポーツ欄等の考察が重要となる。